

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏 名	松嶋 弥生		
入学年度	平成 22 年度	学籍番号	10GG607
領 域	健康支援科学	分 野	障害保健学
審査委員	主 査	西沢 義子	
	副 査	柏倉 幾郎	
	副 査	五十嵐 世津子	
	副 査	工藤 せい子	

論文題目： 妊産婦ケアに生起する“庇護性”に関する研究

審査結果要旨：本研究の目的は、妊産婦ケアにおける妊産婦と助産師との関わりの中で、妊産婦の“庇護性”（護られている）という体験を、ボルノー(ドイツの哲学者)の教育人間学に依拠し明らかにすることである。対象者は、総合病院産科外来を受診した妊産婦 16名と院内助産システムを利用した妊産婦 10名であった。研究方法は、質的記述的研究で、妊娠 28 週から参加観察を行いながら、産後にインタビューガイドに沿って面接を行った。逐語録の分析は、ボルノーの方法論により個々の現象を解釈し、妊産婦が助産師との関わりの中で「安心感」等の“庇護性”に関連した文脈を抽出し、体験の意味内容を損なわないように整理した。その結果、両群の妊産婦からは、助産師が《声をかけてくれた》《話を聞いてくれた》《そばに居てくれた》《触れてくれた》等が表出され、特に院内助産システムの妊産婦は《時間をとってくれた》《妊娠中から継続して関わってくれた》等を表出していた。これらの結果から、【助産師との関わりを通して自分が見えた】のカテゴリが抽出された。さらに、両群の妊産婦からは、《感謝と喜び》《嬉しさとしんどさの間にある気持ち》《新たに開かれる気持ち》、加えて院内助産システム妊産婦からは《助産師とのつながりの実感》が見出され、【助産師との関わりを通して開かれていく兆し】のカテゴリが抽出された。今回の結果から、妊産婦は、助産師に護られているという“庇護性”を実感し、特に院内助産システムにおいては特徴的であった。妊産婦と助産師の関わりの体験を、ボルノーの教育人間学に依拠して分析した国内外では初めての論文であることから、博士の学位に値すると判断した。

最終試験 平成 26 年 2 月 4 日

試験の結果は 合 格 ・ 不 合 格 と判定する。